

Ⅶ 今後の課題

① マネジメントを進めるにあたっての検討課題

○ 短期的な課題

◆ 施設の長寿命化

・個々の施設の老朽化や劣化状況を把握した上で、施設ごとの中長期保全計画を作成し、適切な予防保全を行う必要があります。その上で、個々の施設の劣化状況による工事の優先順位や時期の変更等による経費節減を調整する市全体の長寿命化計画の策定を行います。

◆ 施設の集約化

・施設の集約の際、玄関ホールや会議室などの共用化による延床面積の削減を図るとともに、施設の運営面からも、効率化・省力化を図り、水光熱費や運営委託費などのランニングコストの削減を進めます。

・集約・再配置の具体的な検討にあたっては、都市圏レベルで利活用される施設や地域拠点に配置する施設は、市域を超えた広域レベルでの活用の視点を持って検討を行います。

◆ 利用の効率化

・施設の無駄をなくし、効率化を図るため、施設横断的な利用申請システムの構築を図るとともに、体育館の半面利用や利用時間区分の見直しなどを図り、あらゆる施設で利用効率向上に取り組めます。

◆ 利用料金や減免制度の見直し

・施設利用にかかる受益と負担のあり方の観点から、利用料金や減免制度の見直しに着手します。

○ 長期的な課題

◆ 支出の平準化

・市全体の長寿命化計画の策定に基づき、施設の更新時期の前倒しや先送りなどを適切にコントロールします。その上で、道路や公園、港湾施設などの社会インフラの維持管理に要する費用との調整も図りながら、市全体で公共施設マネジメントを進めていきます。

◆ 運営費の削減効果

・施設を廃止することで得られる運営費の削減効果は、廃止を早期に行うことでより大きな効果となることから、廃止可能な施設については、利用の効率化や利用調整に取り組み、廃止時期の前倒しを検討していきます。

◆ 資産の有効活用

・施設の廃止や集約によって生じた余剰資産や普通財産は、一元的に管理し、民間への売却を基本とした資産の有効活用を行います。

② 計画推進にあたっての留意点

○ 情報公開と市民の理解

◆ 施設の利用状況や収支状況など、わかりやすい情報公開を行います。

◆ 意見収集・調整など、市民の理解を得ながら丁寧に進めます。

○ 行動計画の策定と計画の見直し

◆ 「5ヶ年行動計画」の策定など、PDCAサイクルにより実行性を確保します。

◆ 10年間を目途に計画を改定し、その中間年度に計画内容を見直します。

○ 都市の再構築と活力あるまちづくり

◆ 街なか居住の促進や地域の魅力の維持・向上などを目指します。

○ 取組み体制

◆ 外部有識者で構成する「北九州市行財政改革推進懇話会」での実施状況の検証等により、着実な推進を図ります。